



「教科の力・再発見プロジェクト！」 ★ ～私たちは、なぜ学ぶのか～ ★

今年度も様々な取組をしてきました。しかし、私たち教員の大きな悩みの一つが「いかにして生徒の学力を高めるか」です。本校の先生方は、勤務時間を過ぎても教材研究や生徒支援をしてくれています。それでも、なかなか学力が上がらない。生徒が「よく分かる」と思える授業ができていない。これが私たちの悩みです。学校生活の大部分を占める授業の時間に、一人でも多くの生徒に「分かった!」「できた!」と感じてもらいたい。「じっと授業が終わるのを我慢して座っている生徒をなくしたい」。そんな思いで私たちは毎日授業をしています。学力をつけるということは、先人たちの文化を引き継ぐことでもあり、生徒の進路選択の幅を広げることにもつながります。どうすれば・・・

そんな思いの中、まなび部会から提案がありました。それが「教科の力・再発見プロジェクト!」です。教師の思いと生徒の思いにずれはないか。そのずれをできるだけ小さくすれば生徒の学習意欲が高まるのではないか。3月17日の5時間目に、全校生徒が9つのグループ(国・社・数・理・英・音・保体・技家・美)に分かれ、ねらいにそって「なぜこの教科を学ぶのか」「こんな授業にしたい」のかを、生徒主体で話し合いました。

【ねらい】

- ・生徒と教師がお互いの授業に対する思いを共有する。
- ・どんな力が身につくのかを自ら考えることで、学ぶことに対して主体的で前向きな気持ちを育てる。
- ・「社会に出たときにどう役立つか」を考え、知ることで、学習内容への興味・関心を高める。

あらかじめ「なぜこの教科を学ぶのか?」「こんな授業にしたい!」の2つについて自分の考えを付箋に書きました。それを持ち寄り、各グループの学習文化委員が進行役を務め、意見を書いた付箋を模造紙に貼ってグルーピングしていきます。人の意見を聞いてうなずく生徒、自分の考えをつけ足す生徒、意見をまとめる生徒、学級会や授業中の話し合いで身に付けた力をいかしながら、話し合いが進んでいきました。写真では見えづらいかもしれませんが、各グループのまとめてくれたものを裏面に紹介します。

来年度から、教員と生徒の両方が、この話し合いをもとに授業を進めていきます。授業の中で一つでも「分かった」「覚えた」「できた」と思えるような授業を一緒につくっていきましょう!

【お願い】先生たちも今まで以上に授業づくりに力を注ぎます。ただ、授業だけで学力がつくものではありません。学力をつけるためには、習ったことを自分の中に落とし込む時間が必要です。それが、家庭学習。前回のアンケート結果を見ると、平日の家庭学習時間が30分未満の生徒が41.4%もいました。3年生もいたので、おそらく1・2年生の割合はもっと高いと思われます。先生たちも努力するので、生徒の皆さんも努力を惜しまないでください。自分の進路は自分で切り拓いていくものです!

